

ハクサイ (アブラナ科)

早播きすると軟腐病の発生が多く、遅すぎると結球しません。適期に種を播くのがポイント。

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
11～12月どり												
12～1月どり												
1～2月どり												

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
11～12月どり												
12～1月どり												
1～2月どり												

1) 適地

乾燥に弱いため、肥沃で作土の深い圃場が適しています。

2) 品種

11～12月どり：晴黄 60、黄ごころ 65、黄ごころ 75

12～1月どり：黄ごころ 75、黄ごころ 85、黄ごころ 90

1～2月どり：黄ごころ 90、晴黄 90、晩輝、冬峠

3) 作り方

【圃場の準備】播種または定植の1か月前に1㎡当たり堆肥2kg、苦土石灰150g、ようりん40gを全面に施し耕耘します。播種1週間前にホウ素入りの高度化成肥料100gを施用し幅120cmの畝を立てます。排水の悪い畑では高畝にします。

【播種】規模が小さい場合は、ビール瓶などの底で株間40cm条間60cmになるように畝の上を軽く押さえて浅い播種穴をつくり、1か所5～6粒播いて薄く覆土します。規模が大きい場合は、播種機で2条となるように播きます。乾燥防止のためにモミガラを敷き、十分に灌水します。

育苗する場合はコート種子の利用が便利です。市販の育苗培土を充填した128穴のセルトレイに播種板や手で1粒ずつ播種し、Sサイズのバーミキュライトで覆土します。播種後は十分に灌水し、24～36時間程度涼しい農舎などに段積みして催芽した後、30～50%程度の遮光ネットをかけたハウス内に並べます。播種2週間後より、市販の液肥を500倍程度に薄め、3～4日に1回与えて肥切れさせないようにします。



セルトレイ育苗

【間引き】直播栽培では、発芽後3回に分けて、遅れないように行います。台風がくるような時は台風が通過するまで間引きを延ばします。1回目は発芽後混み合っている所を3～4本に間引き、2回目は本葉3～4枚のとき2本、3回目は本葉6枚のときに1本にします。

【追肥・中耕】1回目は定植2週間後に高度化成肥料を1m²当たり30gとなるように条間に施用します。2回目は定植1か月後に、3回目は葉が立ち始め結球が始まるときに同量を畝間に施用します。1回目と2回目の追肥後は除草をかねて条間を中耕します。

【防寒】1～2月どりのハクサイは結球期の寒害を防ぐために12月中下旬に頭部を外葉で包み、ヒモで軽く結束します。

【収穫】結球が完了したもの（手で押さえてかたく締まったもの）から順次収穫していきます。貯蔵する場合は、収穫したら1～2日乾かし水分を切ってから、1個ずつ新聞紙で包み、できるだけ低温で暗い場所に立てておきます。このとき横にして積み重ねると日持ちが悪くなります。

4) 病虫害防除

害虫はアオムシ、コナガ、ヨトウムシ、アブラムシが発生します。大量に発生すると被害が大きくなるので、定期的に防除することが必要です。病害では根こぶ病が発生します。播種または定植前に農薬を土壤に混合しておきます。また、べと病や軟腐病、白斑病なども発生しやすい病害ですので、定期的な予防散布が必要です。



1回目の追肥・中耕後の圃場



結球期の圃場



市場出荷の荷姿例（6玉）